優秀

ひいおばあちゃん

相模原中等教育学校　1年　磯部（いそべ）　空雅（くうが）

僕のひいおばあちゃんは認知症です。ひいおじいちゃんが亡くなってから、祖父母の家で介護してもらっています。ひいおばあちゃんは、靴下がなくなってぬすまれたとかん違いしたり、無意味におこったりすることがありました。僕はそんな出来事が起きていることを知ったときなぜか悲しくなりました。今考えると、昔の認知症ではなかったずっと笑っているひいおばあちゃんではなかったからだと思います。

ある日、祖父母の家に行くと、自分の猫にえさをあげている元気なひいおばあちゃんの姿がありました。そして、主にひいおばあちゃんの介護をしている祖母に

「介護って大変なの？」

と聞くと祖母は

「ものすごく大変だよ。着がえさせて、ご飯作って、ベッド整理して、となにからなにまで全部やらなきゃいけないからね。」

と言っていました。

僕はひいおばあちゃんとダーツを楽しんでから帰りました。

祖父母の家に行ってから約三ヵ月くらいたった時、新型コロナウイルスが日本にも流行しはじめました。

そして、新型コロナウイルスが流行してから半月くらいたったとき、ひいおばあちゃんが祖父母から感染しないようにするためと、介護の負担が大きいため、市内の介護施設に行くことになりました。

それから一週間たったとき、祖父から父にひいおばあちゃんが介護施設で新型コロナウイルスに感染して息をひきとったと連絡がありました。約四ヵ月前まで祖父母の家でひいおばあちゃんと元気に遊んでいた身としては、とても悲しくなって涙が止まりませんでした。しかし、約四ヵ月前にひいおばあちゃんに会ったことは、僕たち家族にとっても、意味のあることだと思います。また、ひいおばあちゃんの死を身近で感じたことによって、ひいおばあちゃんが祖母などのいろいろな人にお世話になっていたというのがわかって、自分も同じように、いろいろな人に支えてもらっているということを学びました。

僕は、これからはまわりの人を手本として祖母のように、いろいろな人を支えられる存在になりたいと思いました。

また、ひいおばあちゃんの分まで精一杯生きていこうと思います。